

ゼミでの学び

15FF4097 向畑穰

・自分の成長と気づきについて

地域福祉コースに入り、サービ斯拉ーニングの活動を行ってきて成長したことと気づいたことについて述べていく。

私は3人のメンバーと一緒に東浦町にある特定非営利法人絆にサービ斯拉ーニングへ行き、サービ斯拉ーニングの活動を6日間にわたり行った。

そこで私の成長したことは施設の職員さん、利用者と関わっていく機会があり、コミュニケーションを取ることが成長したこととしてあげられる。6日間の活動の中でサービ斯拉ーニングの活動のメインである、絆祭りへの準備をしながらデイサービスやさくさく工房という障害を持った方が通う部屋で渡れて行い利用者との交流を行うことがあった。このサービ斯拉ーニングの活動を行うまで利用者とは全く関わることなく、いざ職員さんに今からの時間を利用者との交流の時間に使ってと言われても最初は戸惑ったが、6日間のなかで関わり方を職員さんや同じ活動先で活動する生徒の姿を見てだんだんと



コミュニケーションを取っていくことについてできるようになっていった。

写真はさくさく工房で利用者の方と食事を取っている時の写真だ。この頃にはすっかりと利用者の方も自分の話を聞いてくれるようになり、楽しく会話ができるようになった。

成長したこととして絆祭りに向けて4人で活動をしていく中でグループの中で活動していく力も成長したこととしてあげられる。私は活動の副リーダーとして活動をしていく中で企画の準備を積極的に行っていたつもりだ。何か形に残るものをして、祭りに参加して下さる方々が楽しんでもらえるような企画にしたいとグループで話し合う中で決定して、ゲームとホットケーキを当日の祭りで学生ブースとして出すことになった。6日間のなかで準備を行なっていくなかで私はゲームコーナー企画のリーダーを任された。ゲームなので祭りに参加してくれる子供達に楽しんでもらえるように考えつつ、大人の方々や利用者も楽しめるように考えた。過去にゲームを学生で企画したことがなく正直不安しかった。しかし当日には多くの子どもたちに楽しんでもらい嬉しかった。

サービ斯拉ーニングを通して気づいたことは、高齢者施設では多くの利用者があるのだがその一人一人にあった支援を行なっていることが実習を通して気づいた。利用者の身体の状況はそれぞれだ。例えば目の不自由な利用者に対して目が悪いからといって全てをするのではなく、ご飯を食べたりお話をし

たり、遊びをしたりはできるのでそれらは自分で行ってもらい、食事の片付け、歩く時に近くに寄り添って一緒に歩いたりとその人にあった支援方法を取っていたので今後の活動に活かした支援をできるようにしたいと思った。

・活動を通して見えてきた地域のことや市民活動について整理する

NPO法人絆へ行って東浦町ではデイサービスや訪問介護などの施設は多いことを知ったが特別療養老人ホームなど要介護3以上の重たい症状を持った人々の受け入れる施設を今後増やしていかなければいけないのかなと職員の方の話を聞いていく中で感じた。市民活動について各種行政サービスをはじめ、地域の活性化を図ったり、地域の様々な課題解決については、これまで行政が主体的に取り組むべきだと感じた。しかし、一方で市民活動団体や、町内会などの地縁団体などが様々な分野で地域を支える重要な活動を展開されている。東浦町では市民と行政が協働でまちづくりに取り組むための行政情報の提供や計画策定などへの参画、そしてお互いの連携の構築を掲げることが良いのでは開花と考えた。

SLからの学びと気づき

15FF3123 西田直矢

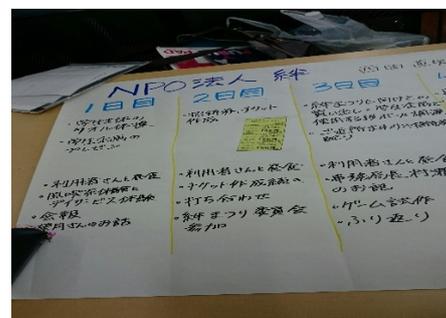
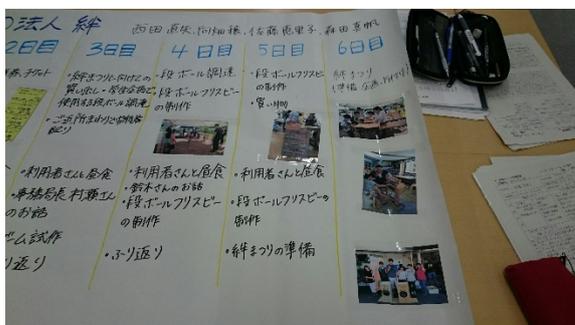
① 自分の成長と気づきについて

私は NPO 法人絆さんでのサービスマーケティングの活動全体を通して様々な事を学ぶことができたと思う。

まず、自分自身の成長については実際にサービスマーケティングとして何わせて頂く前に企画を考えそれに向けての準備をしていく中でリーダーを任された事もあり何かの為に計画を考えて、そこに向けて用意周到にしていくという事が身をもって本当に大変だと気付いた。



その中で準備に不備があったりリーダーとしてミスをして迷惑を掛けてしまったり叱られた事や要領が悪く何かを押し付けられた事も、振り返りの中では自分がこれから強くあるようになっていくために必要な成長の糧であったように思う。というのも元来、私自身はメンタル面があまり強くなく、人から駄目出しを受ける、何か辛いことを言われる、また失敗した事などを気に病み落ち込んで引きずるなどとてもナイーブな、悪く言えばネガティブな人間だったのでサービスマーケティング全体を通して正直苦しんでいたが、だからこそ打たれ強さやグループなどの集団の中での立ち回り方を身に着ける或いは探ることができたのではないかと確信している。



また、自分が活動先としていた NPO 法人が町からの委託事業をはじめ設立当初からぶれないミッションを持ち続けているからこそ、その法人の軸・シンボルとも呼べる独自の事

業なども大切にされていて、実に手広く想像以上にその地域の地域福祉に大きな役割を持っていることが事前学習の時点でも知ることができ、実際の活動を通して尚一層それを強く実感した事は大きな気付きの1つであった。

② 活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について



活動先の NPO 法人絆さん(以下、絆さん)はデイサービスや障害者支援といった形の事業が主としてその場で行われていた事もあり、日本全体の課題でもある高齢化は東浦町においても例外ではないことを改めて知った。

また地域にとっても福祉の大きな基盤となっていることからか、町行政とは友好的な関係を築いておられ、NPO 法人の中でもそれは珍しいことだと言うお話を職員の方から伺わせて頂いた。

逆に言えば一般的には必ずしもこういった法人団体がその地域の行政とポジティブな意味での関係を築いているとはいえないケースもあるのだろうかと考えると、フォーマルもインフォーマルも一丸となって地域福祉を含め、よりよいまちづくりに努める生産的な体勢であることは現実問題として難しいのだろうかと思わずに少々複雑に思った。

絆さんが東浦町にはなくてはならない程に大きな存在である反面、近隣の半田市や武豊町などと比較しても東浦町の NPO 法人は数が少ないことから、市民活動が活発ではないのかとも思ったが、行事への住民参加、しばしば開かれる住民懇談会、形態の異なったボランティアなどもあるため、一概に市民活動が活発ではないとは言い切れないと感じた。

現に活動の中で多くの地域の方の顔が見られ、様々な関わり交流があることを見ていて、この方々は一市民としてとてもアクティブに動いておられるなど思わざるを得なかったことは記憶に新しく、自分の中にあつた市民像はどこか受け身な群衆のようなイメージだったので、本当に良い意味でそれがひっくり返った事が真に自分にとってのサービスラーニングの価値だったと思う。